

「旅行からの学び」

能美市 能美市立寺井中学校

3年 上田心彩

みなさんは旅行先で、どのような経験をしたことがありますか。私はよく家族と旅行に行きます。旅行先での経験はもちろんです、私にとって「外国人観光客の多さ」も非常に印象に残っています。私は、言葉や文化の異なる外国の方に、少し苦手意識や良くない印象を抱く経験をしました。

特に戸惑いを感じたのは、公共の場でのマナーの違いでした。旅行に行ったある日、家族で中華料理店に行きました。店内は満席でやっと席がとれました。兄が一番最初に食べ終わり、自分の食器を片付けに行くため席を外すと、その瞬間すかさずその席に外国人観光客の女性が座りました。戻ってきた兄は椅子に座ることができませんでした。また、私達がテーマパークでアトラクションの列に並んでいる時に、後ろの外国人グループに順番を抜かされてしまったこともあります。これらの行動は法律で罪に問われるわけではありません。しかし私にとって常識であり、マナーだと思っていたので、小さい時の私は、声をかけたいけれど言えないもどかしさや、せっかくの旅行を邪魔されたような気がして、とても残念で不快な気持ちになっていました。

それから数年後、旅行先のコインパーキングでの出来事です。軽自動車専用の駐車場で外国人の方が大型車を止めようとしてたのです。家族の中では、「あの行為はいけないことだ。」「注意したほうがいいのではないか。」などという会話をしていました。そこで、父は注意をしようと車のドアを開けました。しかし、私は「注意はやめよう、言葉も通じないし、何かトラブルになるかも。」と、父を制止してしまいました。しかし、父はそのまま英語で話しかけにいきました。するとその外国の方は事情を理解し、駐車をやめて笑顔で去っていきました。私はそこで、「外国人だから話が通じない」という決めつけを、自分自身が無意識のうちにしていることに気がつきました。また、父の見て見ぬふりをせず、相手を対等な立場の人間として向き合い、ルールを維持しようとする勇気ある行動にたくましさを感じました。

私はこれらの経験から「外国人」や「日本人」などの国籍関係なく、一人一人の人間として物事を考え、決めつけは避けようと思いました。また、1つの情報だけで判断するのではなく、さまざまな立場の人の話を聞くことが大切だと学びました。そして父のように誰に対しても、いけないことはいけないと伝えられる人になりたいと思いました。私は、外国の方が日本に来る際は日本の文化やマナーを学ぶこと、また、私たちが海外に行く際はその国の文化やマナーを学ぶ必要があると思いました。そうすることで現地の誰かを不快にさせることが減り、良好な関係が維持できると思ったからです。日本を訪れている外国人観光客は、決して悪気があって問題となる行動をとっているわけではありません。そして、私が経験したこのような出来事は、おそらく珍しいことでもありません。つまり、私と同じような経験をする人が、これからも増えていく可能性があります。

だからこそ、外国人観光客が増えている今、私たち日本人にできることは、世界共通語である英語を学び、意思疎通を図ろうとし続けることだと考えました。現代には AI や翻訳機もありますが、直接言葉を交わし、時には勇気を持って伝えることで、言葉の奥にある感情や姿勢が伝わり、より深く分かり合えるのだと、父の姿を見て実感しました。

確かに、直接声をかけたり注意したりすることには勇気がいりますし、簡単なことではありません。しかし、私たち日本人のそうした一歩を踏み出す行動こそが、日本の良さを維持し、お互いにとって快適な社会を作るきっかけになるはずです。

今、私の学校に中国にしばらく住んでいたことのある先生がいます。その先生から、中国の文化の面白さや人々の温かさなど、たくさんの魅力を教えてもらいました。それまで自分が抱いていた一面的なイメージが大きく変わり、その国に対してとても親しみを持つようになりました。相手を知ろうとする気持ちがあれば、国籍の違いは壁ではなくなっていくのです。